

JSS

2017 年度第 2 号

だより

2017 年 7 月 15 日

カラー版: <http://www.jss.edu.sg/>



「七夕集会」が行われました！

7月8日の補習校にて、小学1年生から3年生までを対象とした「七夕集会」が行われました。ボランティアの保護者の方とPA 役員が協力して、児童に七夕の雰囲気を感じてもらえるよう AV ルームいっぱい、布や色紙で作った天の川、短冊を吊るした笹、星などたくさんの飾りで彩りました。

集会の司会進行は大塚先生(1部)、小川先生(2部)でした。まず校長先生のお話から始まりました。七夕はもともと日本では平安時代の貴族の風習だったのが、のちに広く一般に伝わったそうです。願い事を書いて飾ったり、星を眺めたりしてお祝いをしますが、地域によって風習が異なり、そうめんを食べる地域があり、7月7日はそうめんの日でもあるそうです。

その後、スライドを使って、こと座のベガ「織姫星」、わし座のアルタイル「彦星」、白鳥座のデネブの星を合わせて「夏の大三角形」と呼ばれていると教えてくださいました。

シンガポールでは、真上の北の方の空に天の川が見えるそうです。つい日々の忙しさにかまけて、夜空を見ることを忘れてしまいますが、一年に一度くらい織姫と彦星を思い浮かべながら星空を眺めたいものです。

お話の最後に、校長先生から「七夕集会が始まります！」と力強い掛け声がかかり、歌の時間になりました。

曲は「たなばたさま」。1年生の中には、この曲を知らない児童もいましたが、先生から上手に歌うコツや、のきば、ごしきの短冊、すなごなど歌詞の意味を教わりました。児童たちは、元気よくのびのびと歌えたので、最後はみんなで拍手をしました。



<校長先生のお話>



<夏の大三角形の説明>



<たなばたさまの歌>



<歌詞の意味の説明>

歌の時間が終わると、ボランティアの保護者の方と PA 役員による読み聞かせが始まりました。役になりきった語り口調に、児童はシーンと耳をすませ物語の世界へ引き込まれていきました。

今回のお話 「なぜ七夕にささかざりをするの？」（作・若山 甲介 絵・藤田 ひおこ）



<保護者によるお話の読み聞かせ>

中国に伝わるお話です。昔、はたを織る天女、織姫と天の神様の牛をお世話する彦星がいました。ある日、彦星は織姫が織った美しい布をたどって二人は出会いました。二人はあっという間に恋に落ち、はたを織ること、牛の世話をすることを忘れ、一日中おしゃべりをしたりして遊んで過ごしていました。そんな二人を見て天の神様は怒り、彦星を天の川の東側へ、織姫を西側へと引き離してしまいました。二人はとても悲しみ、神様はもし前のように働くようになったら、年に一度、7月7日だけ会うことを許しました。願いを叶えるため二人は一生懸命働きました。しかし待ちに待った7月7日は大雨で天の川を渡ることができませんでした。命を捨てるつもりで渡ろうとした織姫のところへ、カササギが2羽3羽とやってきて橋を作ってくれました。そして二人は無事に会うことができました。

中国から日本にこのお話が伝わった時に「織姫様のように願いが叶いますように」「織姫様のように機織りやお裁縫が上手になりますように」と野菜や果物を供えてお祭りをするようになりました。やがていつしか冬でも枯れず昔から不思議な力を持っていると言われていた竹や笹に、色々な願いを書いた五色の短冊を飾るようになりました。

保護者の皆様も織姫と彦星のお話を知っていらっしゃる方は多いと思いますが、笹や竹に短冊を飾る理由をご存知なかった方もいらっしゃると思います。

集会の最後は児童が楽しみにしていたクイズタイム！
 「7月7日の夜だけ会える二人の名前は？」の問題に、
 「おとひめ・ひこぼし？」
 「おりひめ・うめぼし？」

と第1問目から盛り上がりました。簡単に答えられるクイズでしたが、さすが児童の心をつかむのが上手な先生、その掛け合いの素晴らしさで会場中に児童の笑い声が響きました。



<クイズタイム①>



<クイズタイム②>

集会後、今年は水羊羹が配られました。日本も7月に入り水羊羹が美味しい季節になりましたね。児童が大切そうにおやつを持ち帰る姿は、とてもほほえましいです。

今回の集会も、楽しく日本文化を知って欲しいという先生方のお気持ちが伝わるものでした。またボランティアに協力してくださった保護者の皆様、ありがとうございました。